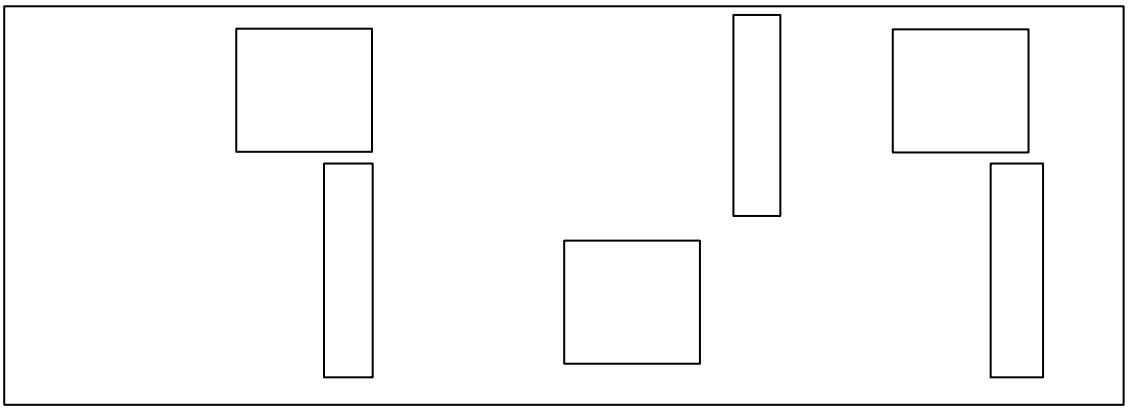
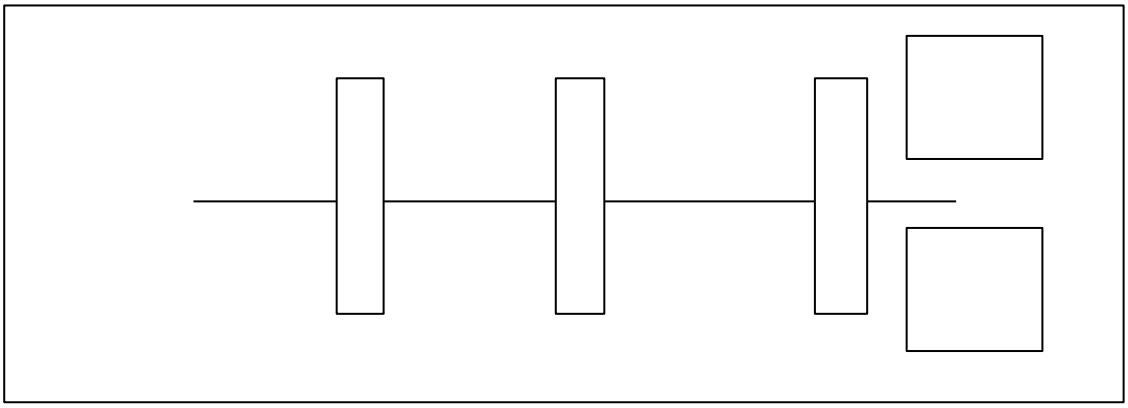
板書の書き方

１．時系列型



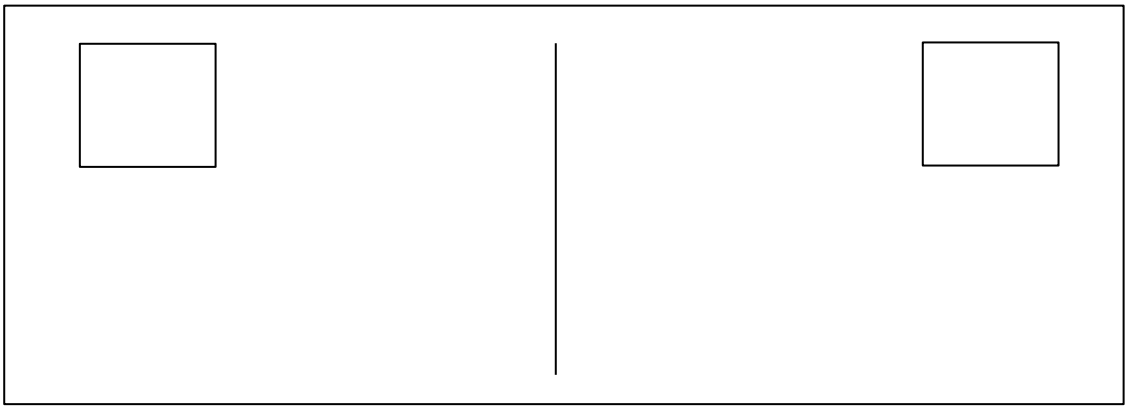
挿絵などは、心情の起伏によって上下させます。

２．同時進行型



主たる登場人物の心情や行動が明確になるようにしたり、複数の登場人物を比べたりします。

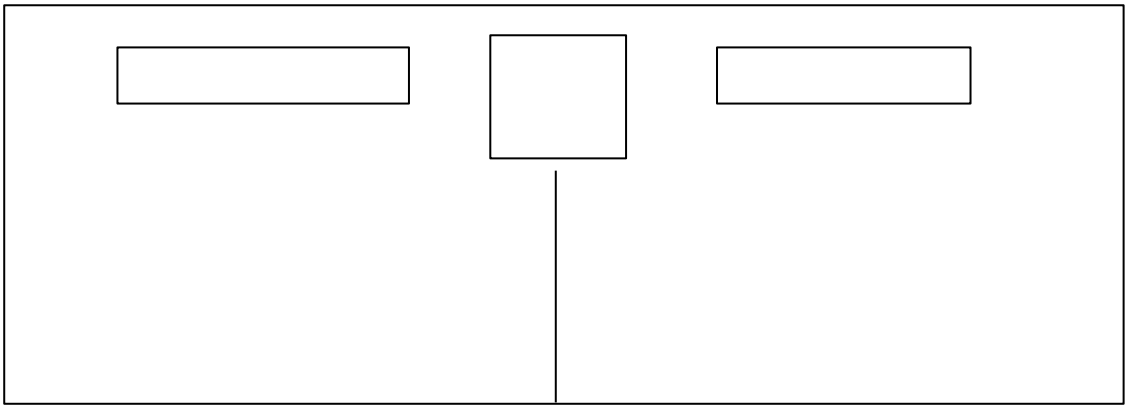
３．対比型



二人の心情や考え方の違いや、寄り添っていく過程を明確にします。

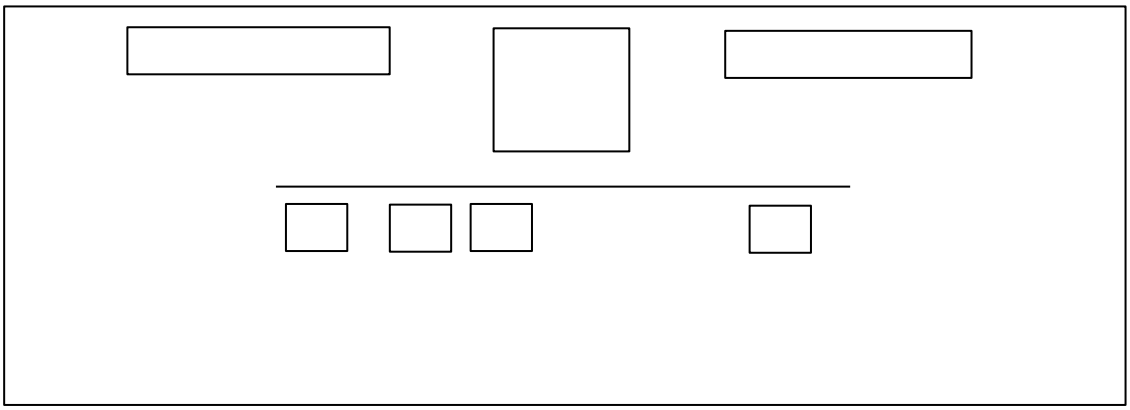
続きます

４．賛否型



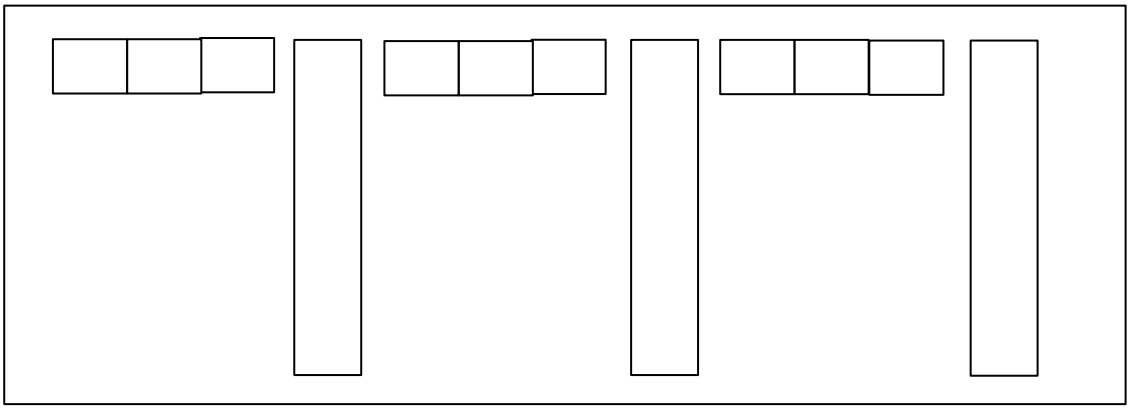
テーマについて、考え方が二つに分かれる場合です。

５．中間を認める賛否型



ネームプレート等を貼らせて、自分の考えの位置を明確にさせます。友達の意見を聞いた後、もう一度、ネームプレートを動かす機会を作り、その理由を尋ねます。

６．討論型



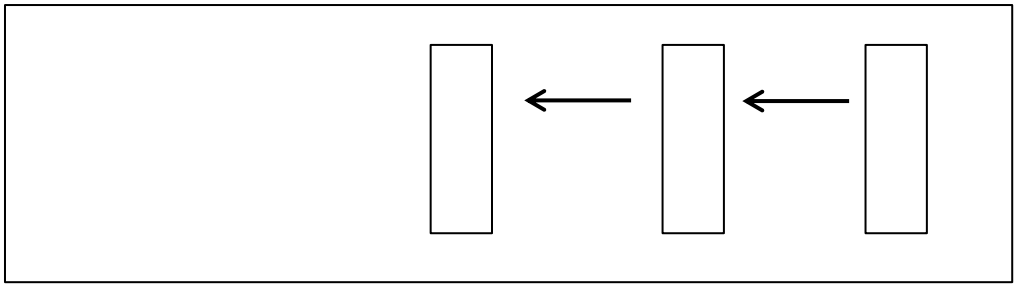
テーマの設定を変えていきながら討論を進めていきます。最後には、テーマを変えても、大切にしたい道徳的価値についての発問を用意しておきます。

続きます

矢印の効用

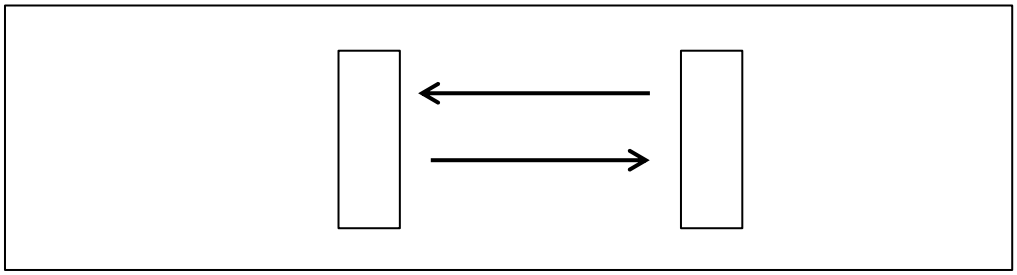
　これらの板書に加え、さらに子どもが見て分かりやすいものにさせるのが矢印です。矢印の効果は、次の４点があります。

１．時系列



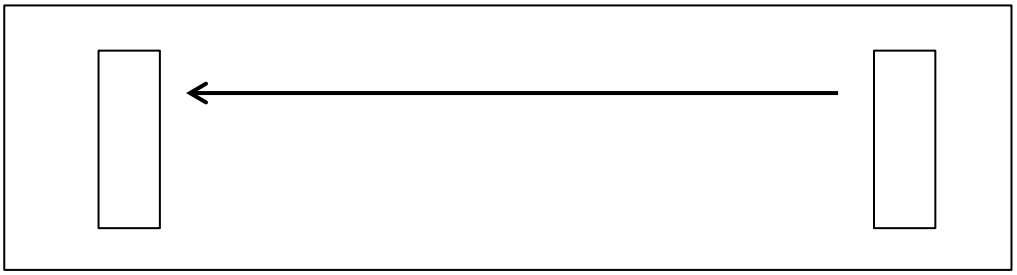
子どもは、場面や登場人物の心情が、左から右へ移っていくことが、見て分かります。

２．関係性



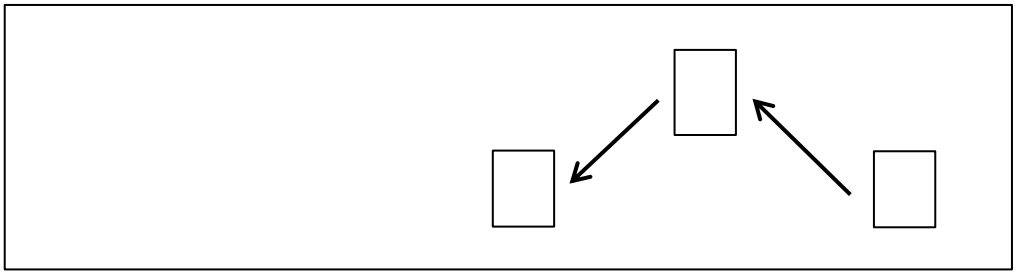
互いが相手にどのようなことを言うのか、思っているのかが分かります。

３．位置・動き



矢印の長さが、時間の長さや場所の遠さを表します。

４．意志の方向性



意志の高揚や方向を表します。心情曲線として、矢印の途中の心情なども考えさせることもできます。